

●木津川希少種植生調査管理業務の管理地の明確化 里山の会の管理地の明確化が生育調査作業や除草作業からも求められていました。維持業者との打ち合わせ会でも明示杭の打設が要求されていました。昨年道路端に明示ピン杭を行って一応明示させていたのですが、再度の要望がありましたので、管理地範囲の上流側と下流側の2か所に杭を打ち込み番号札を取り付けました。管理場所39ヵ所に全部設置が済みしました。この日は、気温を記録した歴史上5月の気温は最高を示したとても暑いなかでの作業となりました。23日と24日の二日間で完了でした。これで各始点と終点が明示されました。長さは確定しましたが幅については不明確なのでもう一度杭打ちが必要なのです。とりあえず急場の行動として一段落となりました。

●25日午前8時30分 「乙訓の自然を守る会」からの活動を視察に三名が来所 里山の会からは深田理事長をはじめ6名が歓迎しました。8時40分に里山農園教育棟に案内し 歓迎の挨拶、自己紹介、視察目的などについて交換しました。乙訓からは今回の視察は3名ですが、6月中に再度訪れるための下見の取組との説明がありました。約2時間30分の時間帯なので、随分と要領よく観察いただくことになりました。里山農園ではイノシシ柵や教育棟 観察棟 栽培農園 エノキ林とオオムラサキ・タマムシ、アカガエルの生息地を駆け足で通り、大急ぎでカスミサンショウウオ池の保全対策に向いました。10時過ぎには木津川希少種植生調査管理地のレンリソウに移動、続いて中聖牛の見学と竹蛇籠の現状、続いて河川敷や堤防での植生調査や除草現場を案内、通り道で草内倉庫を回り各器具を見ていただきました。11時20分に事務所に戻り、相互に質問を行って、森さんが丹精込めたカレーをいただきながら交流を深めました。翌日には早速お礼のメールが届けられました。駆けつけていただきました6名の皆様には朝早くから出かけていただきありがとうございました。問題を見つけて交流を深める時間が少なかったようでした。次回に期待いたしましょう。

●26日午前中に実施した取り組みを里山の会は第1回目の親子で遊ぼう学ぼう魚とりと位置付け、「城陽市教育委員会のキッズの取組」との共催の事業として扱うことにしました。5日前の久しぶりの降雨で木津川の水量は一時増加しましたが、翌日には50cmも低下し、5日後には更に少なくなっており最低の流量になっていました。期待していた青谷川からの流れ込みは見られず、第1候補地での実施は不可能になりました。集合予定地での受付を済ませて、直ちに第2候補地の15k地点、中聖牛設置の玉水浜に移動しての開催となりました。ここでは大釜、深田、播川、福井、金田さんが簡易テントを張りだして、熱中症対策などの用意いただきました。おかげで大きな事故もなくプログラム通りの進行が出来ました。開会の挨拶の後、スタッフの自己紹介も簡単に済ませ、川の危険やライフジャケットの装着をお互いに確認しあって、安全を誓いました。最初のプログラムは木津川クイズで木津川の始まり源流どこ、木津川の長さは、広い川幅は何m、などと簡単な質問を繰り返しました。約10分間のお話で木津川について理解が深まったので、福井さんの先導で魚とりを行いました。川に入るのが初めての方もおられました。親と子が力を合わせて、たも網でガサガサ採りを行いました。テナガエビやヤゴ、ヨシノボリも取れました。40分ほどの時間でしたが、最後にみんなで力を合わせてチームワークでおこなう追込み方式にも挑戦しました。取れると歓声が上がります。嬉しさが伝わってきました。休憩時間にはお父さんには投網体験を先に行っていただきました。次に「お父さんからわが子に教えていただきます」との位置づけだったので、一生懸命に初挑戦をされました。魚合わせでは、興味深く名前や特徴を聞いていました。例年にな

く意欲をもって学習されていました。捕獲できたのは100匹以上の収穫がありました。続いて保護者と一緒に投網の投げ方の学習会です。手元綱を手繰って左肩に背負い込んで、網を手繰り寄せ、反動をつけて投げるのです。子供用の投網で重さ4kgはあります。これを広く大きく投げ広げるのですから、相当の力足の踏ん張り等、随分と力とコツが必要です。去年の経験から指導する側も考えてきましたが、難しいことでした。何よりも体力が必要です、随分とみんなは頑張りました。ここで中聖牛や竹蛇籠のお話を行いました。川の氾濫を防ぐための竹蛇籠を作って洪水を防いだこと、堤防を守ったこととお話ししました。木津川には主に三種類(マダケ モウソウチク、ハチク)の竹が生えていること、そのうちマダケが竹蛇籠に適していること等を伝えました。続いて木津川の水質検査体験を実施しました。短時間にこれだけのプログラムをこなすのは相当無理があるようです。しかし感激いただいたようです。

●26日 午後琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 年度総会と「ごみシンポジウム」が開かれた。総会の後のシンポジウムでは、今話題の海ゴミ特にプラスチックごみに話題を絞る予定でしたが、パネラーの発言やデーターの解説からごみ拾い運動の目的、組織の継続、高齢化等組織が抱えている課題などが提起され、それぞれの発言には深刻な問題が伝えられたので、プラごみ問題や連携の必要性に発展できませんでしたが、不十分さはありませんでしたが充実した発表が続きこれまでにないシンポジウムになりました。司会進行された鈴木様の大奮闘でした。

●26日恒例の朝市が26日に行われました。はざかい期を過ぎて露地栽培の野菜が出回るこの時期里山農園からが、タマネギやにんにく、エンドウ豆を出店しました。どの店からもタマネギがメイン商品として並べられました。里山の会のエンドウ豆が完売になりました。この時期にはタマネギの収穫が最盛期になります、朝市に集まる皆さんも集中してタマネギが主力になってきますので、格安での販売となるので、もう少し時期を遅らせて出品すればいいのではないかという意見が出ています。今年は1000本程の収穫が見通せるので、会員さんへの予約販売が可能ではないかとの見通しています。必要なお方があれば収穫にお越しください。ご連絡あれば受付けます。

●先の総会で決定された事項のうちのイベントは3か月前にチラシを完成させることとなっていました。少し遅れていますが、やっと準備が整いつつあります。また25周年記念事業の概略は8月の第2回理事会で決定するとの件についても、29日の事務局会議で毎月第1月曜日に理事会の開催を行うことになり、一步前進しました。会員各位からの積極的な記念事業へのご提案があれば、ご提案を届けてください、お待ちしております。

参加者募集

参加費無料

木津川本流の生き物調査

6月1日(土)10時~12時
集合場所 玉水橋東詰め
調査場所 玉水浜右岸
指導 京都大学准教授
竹門康弘 先生
参加受付は 現地



一昨年に続き昨年12月に中聖牛3基を設置。4年前に竹蛇籠を設置、生き物がどのように増えているでしょうか。また出水によって地形がどのように変化しているでしょうか。川は水によって作られるといわれてきました。成果と変化を調査します。ごぞってご参加ください。

共催 NPOやましろ里山の会
淀川管内グループ河川レンジャー